





宗師 歐陽文忠公 蔵にて書
 と好くし人も家美に
 巻雲紙より花巻の地と
 砂とやた紙の巻と
 筆とて
 書なるを
 りび後行
 名とのらみ

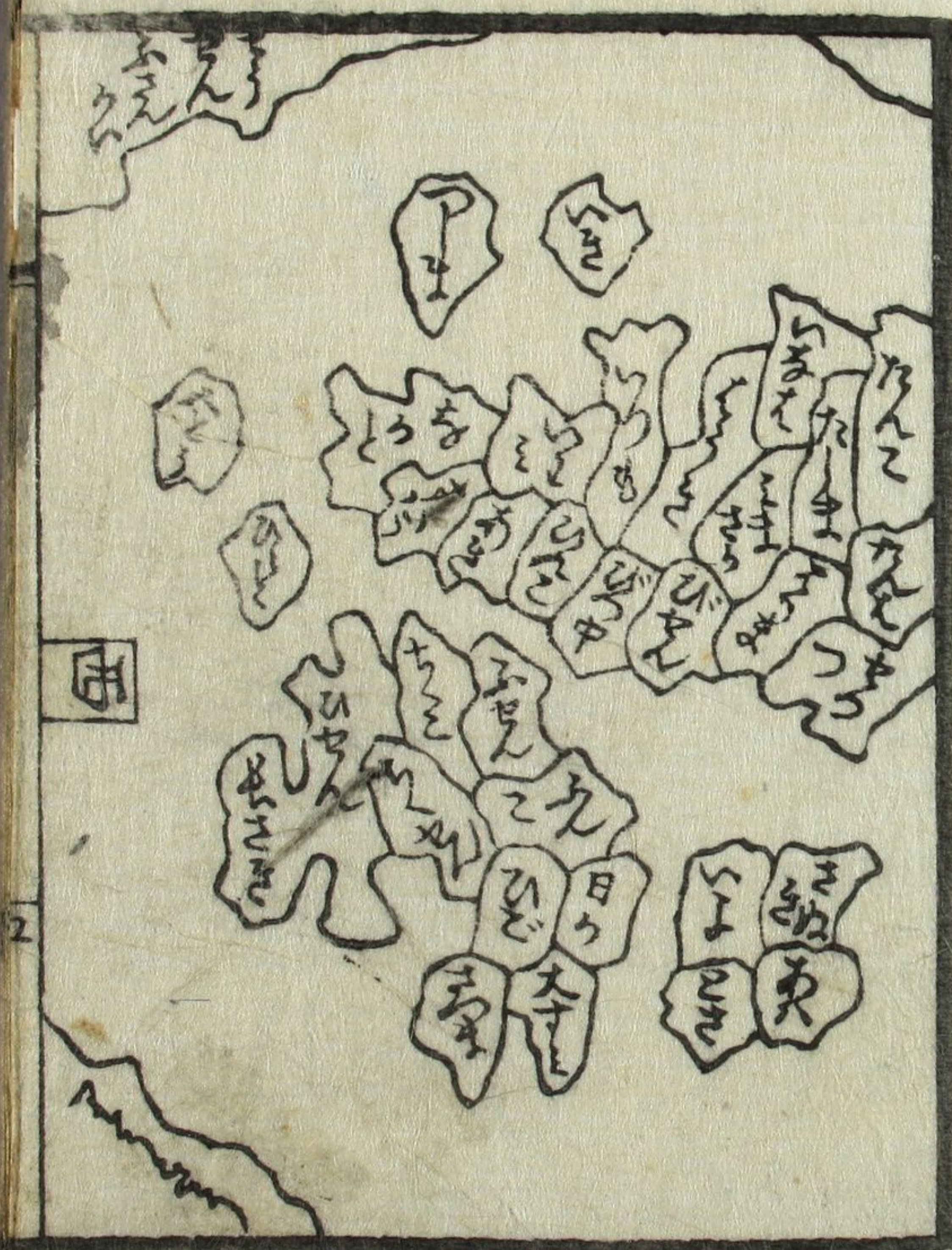


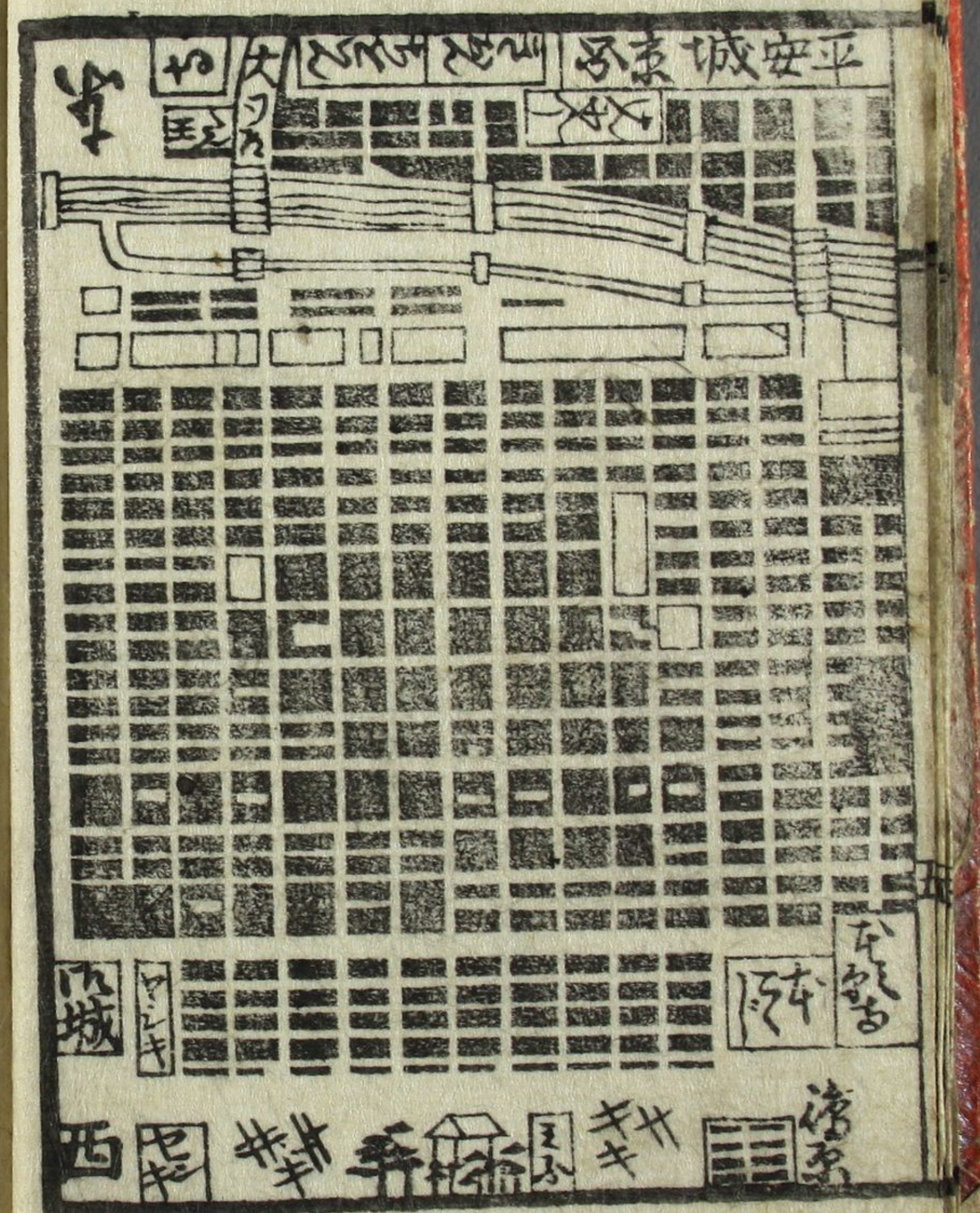
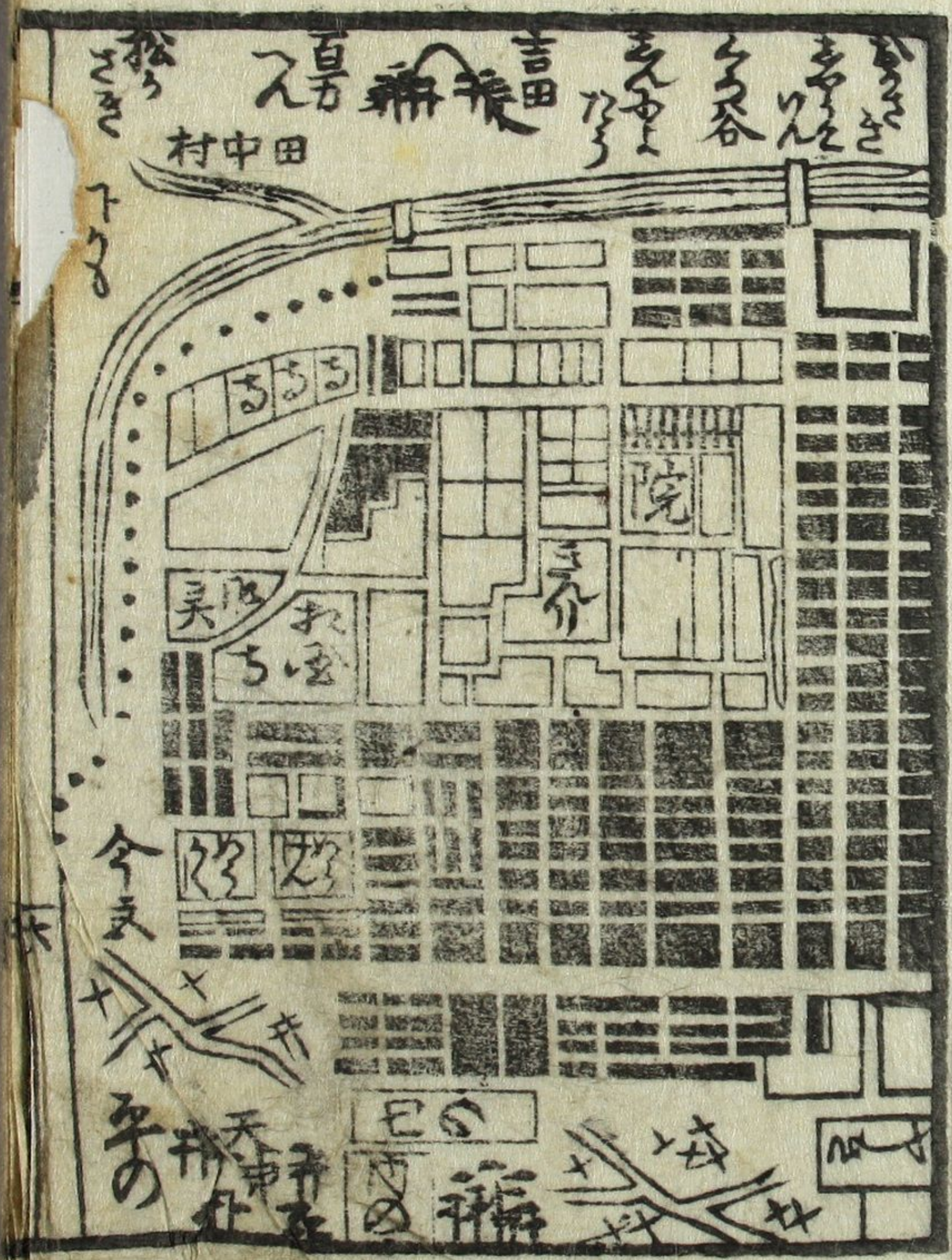


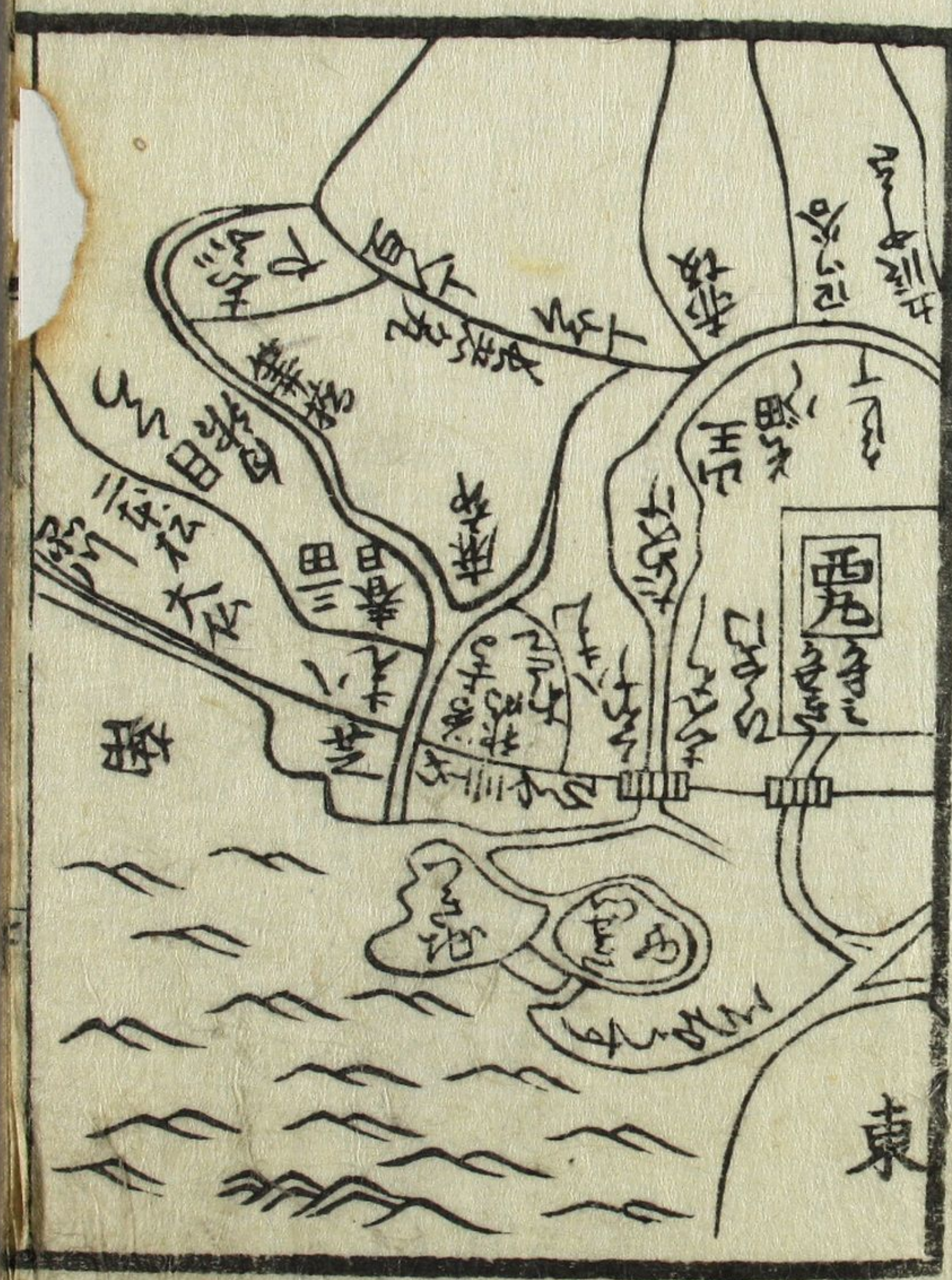
抑は神の御宗へむく葦原此を以て男之
 仁明の御宇義和土二年二月に神元生也
 而人をもあひ女名和んすづれ終つ延在
 の帝此教に依之右大臣子世せさせぬ元元
 小より昌泰四年正月九日筑一文字守府子
 左大臣のい延在三年二月九日に記すに
 一七之れさせぬ御宗又十九之正暦四年
 五月正位大臣子孫官馬天けい三年
 七月に神くもて今に北神に曰ん之也

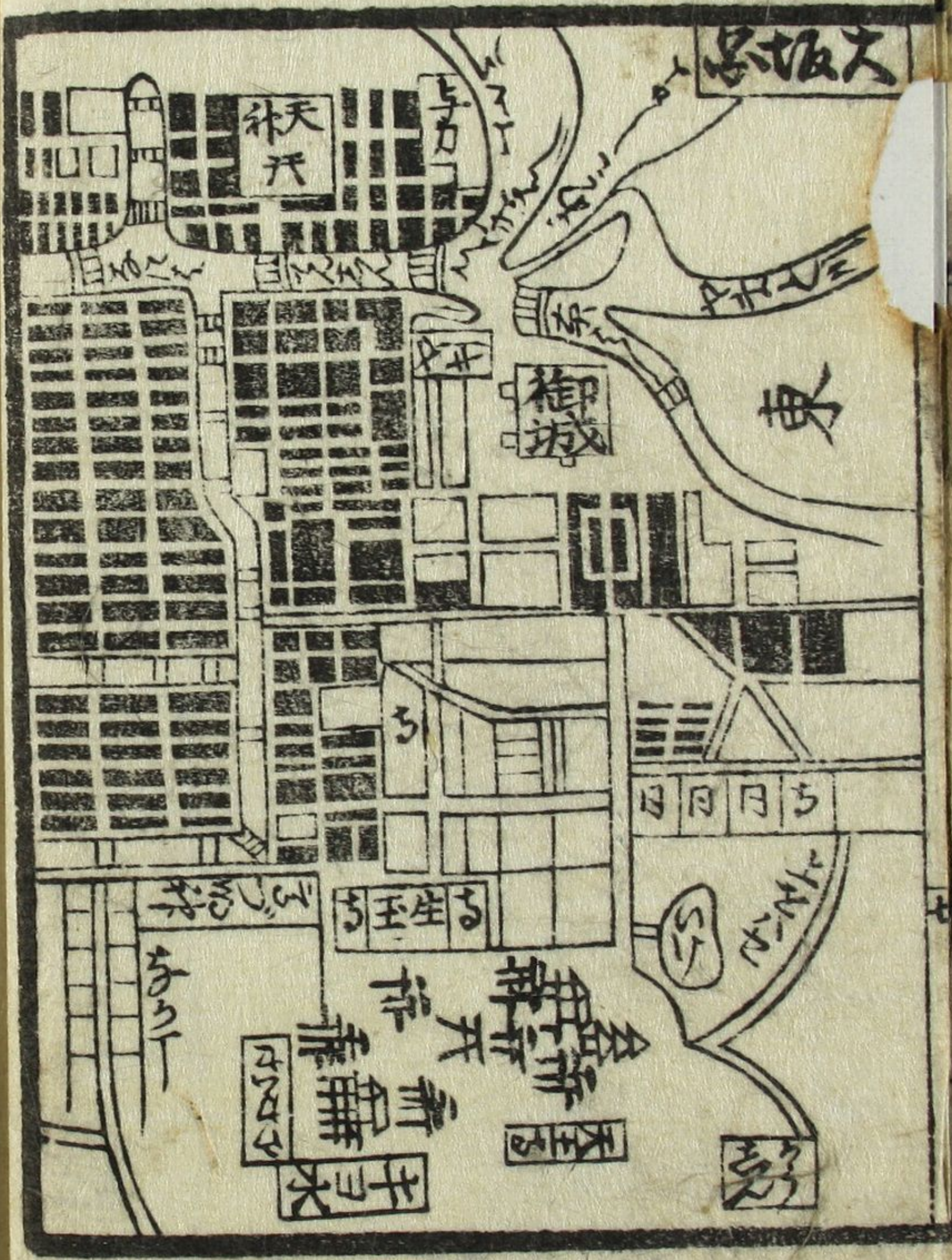












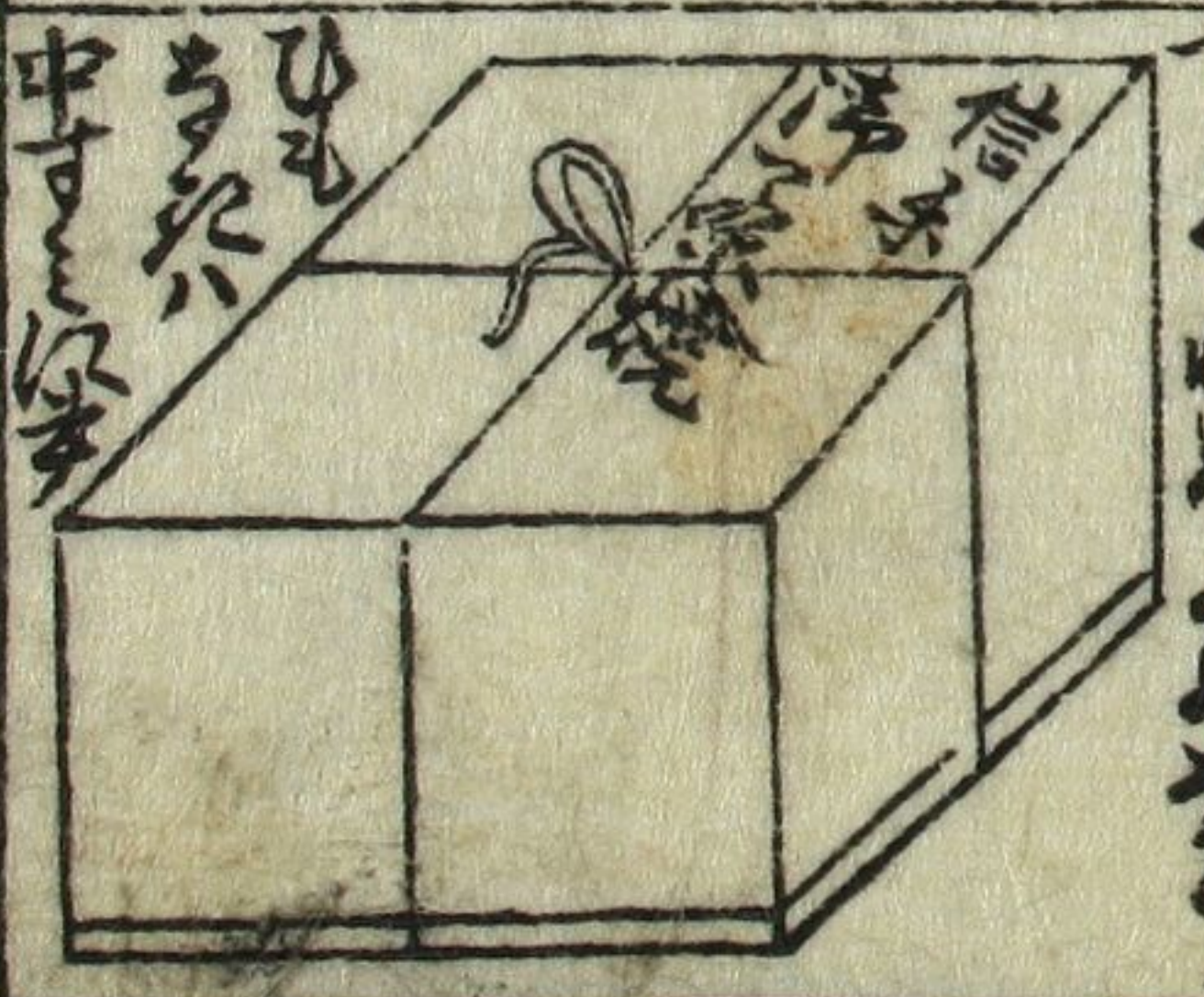


太刀折紙法式

進上 はるす八分	御太刀一腰 はるす六分	御馬一疋 はるす六分	以上はるす八分 氏名友 名系	進上 はるす八分	御太刀一腰 はるす六分	御馬一疋 はるす六分
-------------	----------------	---------------	----------------------	-------------	----------------	---------------

お紙は折ぐ人赤ハズたぐえん一紙
 中位ハ紙中紙小たぐえん一紙
 の紙ハ小引合紙やうえん一紙
 およりの用也▲お中うの二つお
 上位はるす八分下中位はるす六分
 中位ハすくみか下中位ハすくみか
 以上合口九分下人ハはるす六分
 ▲うきやうへ進上と紙はるす八分
 以上ハ一字さけありの紙はるす八分
 ハ衣にあらすあり

まけおとつは紙はるす八分
 一ツのあの上にするは
 さいかへよと紙はるす八分
 の下はるす八分とすくみか
 紙はるす八分とすくみか
 向の名はるす八分はるす八分



えんハおとつは紙はるす八分
 紙はるす八分とすくみか
 紙はるす八分とすくみか
 紙はるす八分とすくみか
 紙はるす八分とすくみか

進上

于鯛 夏

松永主書

おきりかほくしぬのた
よこ板巾のくさり
やーおひくさる



中人のほろひの
とたかんとをまを
まへくさる

御方正京 一腰
御馬 月毛 一疋

以上
あき夜
名宗

上のきりのさうは
進上とまの他名
まらとれ引射小書
あきくへー

御方 一腰
御馬 一疋

以上

中れきりの中
日よひに用小袖
金子あるとたか
をりとするはる
はくへー

御方 一腰
御馬 一疋

以上

あき
あき乃
おひ
あき

沼文細紙

進上 白鳥 厚 綱 雑 海月 空

一 二 一 一 三

氏名 各り

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十

抄目 目録

進上

山益毒

山抄

抄行 十八 十九 二十

三上

各り

抄八つと一合と十と十合と
抄あり

秀 網 鞋 海老 蛤

上

二 一 一 一

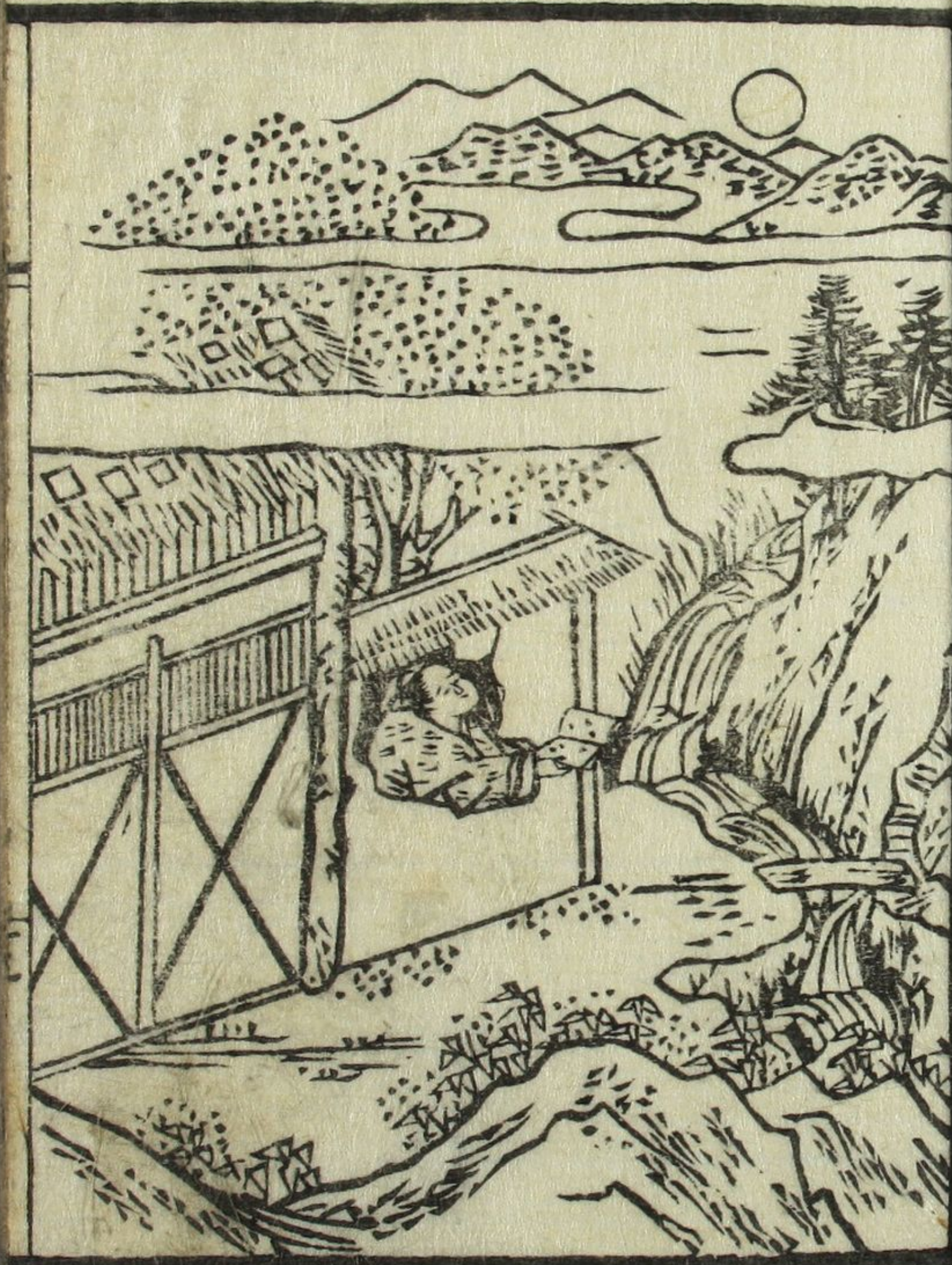
抄あり 二
一

進上

百

進上

残のいふをかき
万七ふとむらま
同くいへむ上り
年



○女中目録

おとよはるより主人
も人の女中三人と
上のくまごのくの
くまごのくまごの
お張 目録
はみ 日記あり

あ全	たい	なり	あ子	西子
白子	お	お	お	お
二				

香奠まね

百清香奠

香奠を上のま
もりのと六
へん

あの子をくまごの
女中三人とを
くまごのくまごの
かごのくまごの
はるかごのくまごの
くまごのくまごの
上の女中より
へ八上の女中の
よりより

白子	あ子	ゆき	西子	山子	西子
一	一	一	八	一	十

遊休まね

東十六日花
あふちの
清酒とと
夜におはる
てあひ
今月日
は身
張様

女中方に於て紙を扱

ふんと

百ひき

ふんと

百ひき



男のふんとその人の女中ふんとをいふはふんと
しつしひきれ字をふかにくくくし下は紙を
扱ふふんと男へはくふまはく女中へはくふまはく
ふんとふまはくふまはくふまはくふまはく

封状上す市下

名守官取

表

名

表

何れは様

上

何れは様

中

封状ハ折れにわて名
のうらめやれくくく
ふまはくおめはくひて
もくくくくくくく
ふまはくふまはく
ふまはくひはくふまはく
ふまはくふまはく
ひりりふの附はくふま
めはくふまはくふまはく
ふまはくふまはく
めはくふまはく



何事か
下

誰か
誰

片子の快くはく
吊袋おとじたへより

大 誰か
今

紙八曾ハき教中ハ抄致

おとりのふきこりて
アトよふかひのちも人
ハすいふんみどらう
まへ

振付

糸考致 考致

素人今 今

出致 出致

斤うか

いろはに
イロハニ

ほへとち
ホヘトチ

リぬるを
リヌルヲ

リカヨタ
リカヨタ

レウツ子
レウツ子

ナラムウ
ナラムウ

あめたく
アメタク

井ノオク
イノオク

やまけふ
ヤマケフ

こにてあ
コニテア

コエテア
コエテア

サキユメ
サキユメ

多しあひ
タシアヒ

とこよ
トコヨ

刊世ス
カンセス

京

実語教

山をたつ不貴

人肌故不貴

善是一生材

智是万代材

王不應空

人不學空

金肉材有朽

後積子金

兄弟者不台

若樹の貴

必有智の人

身成即共滅

命終即無行

空元の人瓦

空智の人

此肉才在朽

不如一日孝

慈悲の兄弟

筆法点画

永字八法

側
永
勒
策
掠
努
磔

永字八法
筆法の根柢
永字の八法
永字の八法

一 一 二 三 四 五 六 七 八
永字八法
永字八法
永字八法
永字八法
永字八法
永字八法
永字八法
永字八法

材物永不存

日大日之衰

幼時不勸學

當學有正益

學又勿怠時

無執終日習

流如向市人

唯如計議材

小人宅福人

為世材人若

才智為材物

公休夜吟吟

老後遺恨悔

故讀書勿停

除暇題杯酒

隨處師不字

流如向市人

君子宅智若

富貴之家改入

行如費下死

十二時異名

日出辰時 食時

禺中午九ツ 日中

日昃申七ツ 晡時

日入戌五ツ 黃昏

人定子九ツ 夜半

雞鳴卯七ツ 平旦

士月初名

正孟春 端月

二仲春 如月

三晚春 如月

四孟夏 如月

五仲夏 如月

日出令其門

為有智人者

家如泥中蓮

父母如天地

師若如日月

親族如草木

事如指如瓦

父母孝於父

沙無仕名秋

交友如漆車

已兄盡礼教

已弟致孝願

人而尊智者

不異於木石

人為孝者若

不異於高生

不交之孝者

何遊七子林

不孝不仁等

浪浪八苦海

六 林 隆
あき月

八心乃復慶

十思人不性

七 孟秋
あき月

益乃邪道乐

放逸者不道

八 報恩
あき月

教老母又母

是初如子身

九 季秋
あき月

我教他人者

他人亦教我

十 小呂
あき月

已教人教者

人亦教已親

土 仲冬
あき月

欲達己身者

先令達他人

土 大呂
あき月

見他人之慈

非自共之惠

日本四性

聞他人之毒

知自共可悦

平 隆
あき月

見若者速行

見愚者勿避

橋 隆
あき月

好若者招福

好若者為善

破軍星



正月ハスツチ

二月ハムツチ

三月ハツツチ

四月ハルツチ

五月ハクツチ

六月ハナツチ

七月ハヒツチ

八月ハフツチ

九月ハセツチ

十月ハニツチ

十一月ハミツチ

十二月ハヨツチ

正月ハスツチ
二月ハムツチ
三月ハツツチ
四月ハルツチ
五月ハクツチ
六月ハナツチ
七月ハヒツチ
八月ハフツチ
九月ハセツチ
十月ハニツチ
十一月ハミツチ
十二月ハヨツチ

破軍星の
破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

但有命有法

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

實語教終

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

亦有命有命

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

破る者も
破る者も

身終勿忘矣

國盡

五畿内 五畿内

山城 山城

大和 大和

河内 河内

和泉 和泉

播磨 播磨

美作 美作

備前 備前

備後 備後

志摩 志摩

尾張 尾張

童子教

夫貴人亦居

過道路既已

多事當拘向

不同者不苦

既居不待立

有口奉教承

信不取大古

有作若謹固

三宝之之礼

人間成一礼

造真时初信

向堂塔之希

向聖教之上

神明被再拜

師若可頂戴

色社時刻下

不可形不淨

不可致多礼

三河 八歌

遠江 七歌

駿河 七歌

甲斐 四歌

信濃 五歌

相模 八歌

武蔵 七歌

安房 四歌

上総 七歌

下総 七歌

常陸 七歌

東山 七歌

人倫有禮若

交際不特云

福子不遠朋

語多若亦少

情若若食名

常若必有危

純若又若也

人身若付能

人眼若翳天

車以寸格

約廷必有法

車早若速避

言說不特能

若約如味友

瘦若必食菓

反出如火入

春鳥如遊林

客而勿殊云

濕而勿犯用

抱以里路

近江 近江 近江

員徳 員徳 員徳

飛騨 飛騨 飛騨

佐流 佐流 佐流

上野 上野 上野

下野 下野 下野

淡真 淡真 淡真

出羽 出羽 出羽

小澤 小澤 小澤

若狭 若狭 若狭

紙布 紙布 紙布

加賀 加賀 加賀

人取三寸舌

口是福之門

使口如鼻者

惡言一出若

白圭珠可磨

破換吾人身

舌是福之根

終身教毒事

罵詈不返舌

惡言玉難磨

禍福若子門

天化災可避

交積善之家

又好惡之處

人而有陰德

唯人在不拓

自化災難避

必有餘慶矣

必有餘殃矣

必有餘報矣

結也 結也

越中 越中

越後 越後

佐渡 佐渡

丹波 丹波

丹波 丹波

丹波 丹波

但馬 但馬

周防 周防

仙臺 仙臺

出雲 出雲

人而有法行

佐力堅固門

念力強盛家

公不同如面

不換他人弓

箭車之見度

亦幸之不思

若立而名流

人若死苗名

國土實是

必有思名矣

其得雲云記

初後月坊光

雲如水清意

不換他人弓

箭車之為戒

亦幸之方解

冠極而福多

人若死為皮

勿悔親實矣

石見 石見 石見

隠岐 隠岐 隠岐

出羽 出羽 出羽

播磨 播磨 播磨

美作 美作 美作

備前 備前 備前

備中 備中 備中

備後 備後 備後

安芸 安芸 安芸

周防 周防 周防

長門 長門 長門

南海 南海 南海

天子不養人

入境而回禁

入郷而改俗

入門先問諱

君不養私悖

臣不養私悖

如周爰朝矣

非的射要人

師出打弟子

生而無貴者

則民化也矣

入國而回也

入俗而隨俗

為教主人也

子二名也

必不可有也

似周針揚地

非殺の念也

非色の念也

成智也

成智也

成智也

紀伊 紀伊 七郡

淡路 淡路 二郡

阿波 阿波 五郡

讃岐 讃岐 四郡

伊予 伊予 七郡

土佐 土佐 七郡

西海 西海 十郡

筑前 筑前 十郡

筑後 筑後 十郡

肥前 肥前 十郡

肥後 肥後 十郡

豊前 豊前 十郡

貴者 貴者 七人

道者 道者 七人

師者 師者 七人

弟者 弟者 七人

長者 長者 七人

高者 高者 七人

長者 長者 七人

不教 不教 七人

不和 不和 七人

明者 明者 七人

留者 留者 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

是名 是名 七人

豊後ぶんご八郡はちしゅう

日向ひゅうが二郡にしゅう

大隅おほぐも二郡にしゅう

薩摩さつま二郡にしゅう

壹波いちなみ一郡いちしゅう

對馬たいま一郡いちしゅう

四ヶ所

日本大郡

京都きょうと江戸えど大坂おさか

日本廣邑

二十五ヶ所

奈良なら大和おほやまと

伏見ふし見嵯峨さやま

馴若人なれわか不群ふぐん

随順ずいじゆん若友わかとも若者わかぢやう

軟边なんぺん若友わかとも若者わかぢやう

難經なんけい付つ疎そ疎そ

根性こんじやう後ご愚鈍ぐどん

一日学いちにちがく一字いちじ

一字者いちじぢやう子こ金かね

一日いちにち昨けつ不ふ疎そ

作者しやうしや之の世よ契せき

身子しんし去こ七天しちてん

大和おほやまと如ごと法ぽう海かい

如ごと林中じゆちゆう送そう送そう

如ごと夜よ中ちゆう煎せん煎せん

如ごと戒かい之の業ごう業ごう

如ごと目め付つけ言ごん位い

二百六十字

一点助いちてんすけ生せい

况いはん教けう年ねん昨けつ年ねん

如ごと者しや一いつ世よ眼がん

如ごと教けう不ふ可か踏たふ

如ごと者しや一いつ世よ眼がん

如ごと教けう不ふ可か踏たふ

如ごと教けう不ふ可か踏たふ

堺 泉橋付
河内のみま

茨 吉門

大津 近江

名古屋 尾法

岐阜 美濃

山田 伊勢

安濃 尾

甲府 甲斐

駿府 駿河

和歌山 紀伊

淡路 阿波

敦賀 越前

親孝 かんこう 為 な 所 ところ 孝 こう

室 むろ 冠 かん 戴 たい 足 あし 院 いん

若 わか 至 いた 乃 の 親 おや 孝 こう

既 すで 戴 たい 又 また 母 はは 骨 こつ

宝 たから 瓶 びん 内 うち 白 しろ 骨 こつ

初 はつ 早 はや 起 おこ 洗 せん 子 こ

掃 はら 帚 ほう 浦 うら 經 けい 卷 まき

夕 ゆふ 邊 へ 床 とこ 酒 さけ 足 あし

掃 はら 性 せい 業 ごう 貞 ちん 院 いん

勿 な 後 ご 不 ふ 入 い 意 い

如 ごと 碎 さい 屣 せき 洞 どう 流 りゅう

後 ご 子 こ 是 こ 不 ふ 後 ご

盡 つひ 誠 まこと 如 ごと 隙 ひま 洞 どう

為 な 衣 い 之 の 冬 ふゆ 秋 あき

恩 おん 室 むろ 通 とほ 祝 いわい 浦 うら

念 ねん 念 ねん 之 の 夏 なつ 日 ひ

除 のぞ 飢 うへ 終 しま 日 ひ 智 ち

碎 さい 酒 さけ 心 こころ 相 あひ 礼 れい

可 か 念 ねん 徒 た 字 じ 文 ぶん

温 ぬる 身 み 增 ま 暖 あたた 眠 ねむ

金沢 加賀

仙臺 陸奥

會津 日

水戸 飛騨

姫路 播磨

廣嶋 阿波

福岡 筑前

博多 日

長崎 肥前

隅本 肥後

鹿兒嶋 薩

大邑 薩

安房紀伊

薩摩

閉戸

維新

運名

巨海

孫教

後素

信教

車流

張堂

積秀

不知

不知

調以

宣士

体根

風入

列宮

倪寬

一頁

十四

る妙

西にふゆの

に尾よの

松も羊より

て老のふも

もあうや

こけふふふ

のふふふ

授帝文不捨

益教好學文

道致碩學後

に恒補經論

腰者捧文書

學人若皆

文操滿園家

規磨黨拓園

又削弓經文

張必補新古

あままた

あままた

あままた

あままた

あままた

あままた

あままた

枯木結葉美

古骨得音矣

早呈博士位

好學子登作侍

望其高其出之矣

乘老毛補史記

伯英九歲初

宋史七十幼

智若流下芳

思若流下芳

夫の如く
くふむ
まふと
くせ
まふと
まふと
代ふ
いふ
松

須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山

又恩者高山
智者者欲乐
愚者者常忧
智者作罪者
智者化罪者

くふむ
まふと
くせ
まふと
まふと
代ふ
いふ
松

須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山
須弥山

又恩者高山
智者者欲乐
愚者者常忧
智者作罪者
智者化罪者

七
存
く
り

雅
波

ゆ
り
と
と
と

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

か
か
か
か

父母其音

父母其音

摩頂多

摩頂多

貴乳味好

貴乳味好

教歸貴

教歸貴

漢舞

漢舞

月新造

月新造

多初

多初

如樹

如樹

如樹

如樹

天雷

天雷

天雷

天雷

らのごんごん

そをみえ

いごをい

とんけい

のえんごの

をよものひ

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

とんけい

靈地吸其命

郭巨為食母

掘穴得金壹

妻為去自婦

汲水得庭泉

孟宗哭竹中

深雪中拔笋

王祥欲叩冰

聖珠上踊魚

舞子為食父

淨位用兩眼

刑柴狼老母

畫食成駱若

董永賣一身

伎者為御忌

揚威念福母

虎若啼免害

祝鳥為食有去

為者未運埋

許牧自化真

代のたがを
松のけのい
のあいのり
はてたを
とゆきま
久く
かんらん

松柏植は基
又母は老
早可傾淫殺
迷可求其提

佛神を
生死命を
煩悩を
獸可欲汝如女

のめい
か中
もく
多ひ
を
初ひ
あ
い

會者定難苦
生者必滅悲
相生又死矣
池風易壞矣
全此具途野

忍可忍六道
壽命如浮泡
身伴如芭蕉
後死臨誦者
黃金珠玉者

あつたま
このまゝ

でと

作生身

まゝくま

げまらん

てまおに

のからけに

わうけい

上よらん

いんらん

まゝん

かかひり

らのまゝ

けいま

唯一世財宝

常衣常服者

更非佛道真

官位電威者

只祝世名國

政名世路之矣

壽命及消後

重死考考之矣

身休及地境同

切利摩尼殿

欲遷化無常

大梵高者因

悲火血刀若

須達之十位

言由能世業

阿育之七宝

金買於命

月支還日威

殺持持王使

持帝叔力

木性カウツ

吉五

秋卒杖後打

人取可引能

吉五

凶五

布能善提家

人を不捨財

火性カウツ

吉五

可布能多材

具他布能時

吉五

凶五

可生能喜心

燃心能一人

土性カウツ

吉五

功位如大海

能已能捨人

吉五

凶五

得教如弟子

惡能為塔人

金性カウツ

吉五

早研黄金鹿

折能供佛菓

吉五

凶五

速結蓮花鼓

一信交刀

記持持王位

半偈因法德



水性の

吉 五
吉 五

古なること
予をとりて
その性況を
考ふるは
用ゆるなり

勝之を家室

中可致四思

共可成傳道

強因果及理

見者勿排傍

童子被教

上須求辨

下偏及六

為誘子初童

出内典外典

因若以生笑

男子は慈婦
又人の男若に
万物を生むる
男は女の生む
まのにおいも
は法政の場
天地前後左右
上下大小を成
別業はくさ
天の赤く左天
之を之別より

てまけこの事
本業虫にのり
よそめをれ
らめて男はま
まのたふに
星是天地月
地の理之礼記
内列の篇に
男子は女に
女の教と方と
の名とどか

今川了俊恩息
仲秋制詞條
一 不知文道武乃終
一 好務善道遠樂
一 自得勝利事

益教生事
一 小遺輩不道礼の令
一 行死罪事
一 大科強為異負沙
一 依教定免事

七支にあらぬ八女
と食とさうり
廿八支にあら
ハあつてそれ他
法とあつて九支
にあらぬ八目をら
そふとさうり
十支にあらぬ八師
にあらぬ八女
さん取とさうり
ふ十有七支に

あれはくまをま
あふ又あふ人のち
くまのあつて小
学入十支を大支
にへり已とあつて
さうりさうりあつ
今れ世の人は
是とさうりあつ
雅の比よりさうり
ひはくみとさうり
はくとあつてさうり

貧民会設例神社控

茶花事

先祖山名寺塔下破

塔在私宅

君父重母心念志却忠

孝悌事

程公勢重私用忌

天及働事

不辨上下尊卑不正

賞罰事

ことつちのゆき
とていふこと
みちのちか
親をさし
よきこと
ふしとていふ
あーけか
後に益さ
只男子たるも
のハ士農工商
ともいふこと

一 我必知長中働事又

る同あ

一 金色私を脱以他人

熱不月

一 失他人程致監中

くえのめい
身一とていふ
あへ

控威事

一 不知身分限或は

或不足

一 婦賢人老信人

法

あまふ
筆を
入て
よあ
たり
よれ
あり

相生名記

木性武志

八而後平

乃能立文

并安門深

火性九吉

源菊嘉女

志系元久

積金小表

土性忠長

利傳治定

法着重六

文林亞純

东立志理

金性与又

存保字乙

孝休乃吉

和永由忠

此道富不可羨心修

妻不之控事

長酒其遊與勝負

忘家職事

已迷利根乾乃端嘲

他人事

人未則構虛病不能

對面事

好獨味不能極人令強

居事

要虎恒安
慈光如茶

水姓 佐三

七次 佐新
仁作 市助

志政 清徳
長松 守辰

巳江 康

一 武具衣裳已と今下
ふくいしんしんあつたふんしん七志ん

見若事
こころい

一 出家沙門心致若家
しんけしんしんあつたふんしん七志ん

心礼事
こころい

一 貴後ふ女因果及程
きんごふにんいんぐわいじやう

安来度
あんらい

一 於分國立法國令頒
おのりくにりつこくめいはん

を語人
をことわん

衣以修
いよしゆ

馬合就塔事
ばがじゆたふし

うけむけのり

木姓 酉の年

八月より九日の
そののこくに入
るれ年まで七
年よりうけ

火姓 子の年

十一月の日の
のねれこくに
入りむすれ年
まで七年の
りうけあり

十六

土性午の年

五月むまれ日

むまのこくれ

今ぬのう

まそ七年り

るうけ

金性卯の年

二月うの月

うれうに

まそ七年り

るうけ

乃云録し圖書之致執り美

中一也之不可身國事之學

又之石之公政乃有圖書又

經之卯軍事苦於然之

知少之何お律乃公案候

愚友謂也公假獲一團一

勲身之危人毛教徳乃

結成然身一出生武士家

煙合戦之雲霧を侍ふ教

考人中名お多被補是

金

火

木

土

金

火

まのいぬ

まのいぬ

まのいぬ

まのいぬ

まのいぬ

まのいぬ

ひのくぬ	ひたのじ	つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら
水	土	土	金	木	水	土	水

也先^{チンギス}之^{チンギス}知^{チンギス}我^{チンギス}必^{チンギス}皆^{チンギス}受^{チンギス}其^{チンギス}害^{チンギス}
 鐵^{チンギス}騎^{チンギス}集^{チンギス}未^{チンギス}則^{チンギス}思^{チンギス}其^{チンギス}害^{チンギス}
 誰^{チンギス}指^{チンギス}諸^{チンギス}人^{チンギス}殊^{チンギス}果^{チンギス}世^{チンギス}世^{チンギス}入^{チンギス}
 宰^{チンギス}則^{チンギス}己^{チンギス}心^{チンギス}以^{チンギス}行^{チンギス}其^{チンギス}害^{チンギス}
 紀^{チンギス}也^{チンギス}去^{チンギス}門^{チンギス}亦^{チンギス}成^{チンギス}市^{チンギス}二^{チンギス}品^{チンギス}

つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら	つちのうら
木	火	金	水	木	火	木	火

可^{チンギス}也^{チンギス}之^{チンギス}理^{チンギス}也^{チンギス}乃^{チンギス}其^{チンギス}表^{チンギス}
 一^{チンギス}且^{チンギス}忍^{チンギス}又^{チンギス}於^{チンギス}下^{チンギス}至^{チンギス}乃^{チンギス}其^{チンギス}貪^{チンギス}
 民^{チンギス}保^{チンギス}累^{チンギス}之^{チンギス}害^{チンギス}亦^{チンギス}非^{チンギス}可^{チンギス}計^{チンギス}
 志^{チンギス}能^{チンギス}也^{チンギス}請^{チンギス}為^{チンギス}申^{チンギス}披^{チンギス}其^{チンギス}害^{チンギス}
 有^{チンギス}立^{チンギス}者^{チンギス}皆^{チンギス}門^{チンギス}如^{チンギス}劫^{チンギス}後^{チンギス}族^{チンギス}

土

金

火

水

土

金

然分列紀下衆經古

人金云之教冥法浦法也

皇天也云云也乃大取日月

如雲草亦國去之若又

卯格山海經在信判

水

年

七年

八年

七年

八年

初及頃也及不可

あはた才高く

悪く明堂

復志志堂人

司好信人

たすしめおれお
本九つふん
三つれひれ
七つ金
又あつ
比まんの
九八やまひ
七八ぬに
ちまんの
ちん

これ
唯佛
法法
武
仁義
信
人
北
金
科

孔明六曜占
先勝日
正月
友引日
先有月

則
道
科
忠
貴
私
用
不
教

まづるる月
由平台もぞど
万より

●佛滅日

甲辰の辰也
乙卯の卯也

○大安日

辛巳の巳也
壬午の午也

●赤口日

乙未の未也
丙申の申也

午のこりり

卯のうら

辰のあつ

巳のあつ

午のあつ

未のあつ

申のあつ

酉のあつ

戌のあつ

亥のあつ

人教業定り而領之
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知
此法家も人法先祖知

此法家も人法先祖知

寛永十九年

曆中段

建

ぎんぎん

大吉えんま

万のうらな

万のうらな

除

ふゆの日

うらののこい

えんちん

すこ

満

あの日

目このうらな

まうらえん

またんか

すのれ

平

うらな

げん

うらな

す中えん

月

腰越

源義経公怒申上意越

者公撰河代官其一為

勅宣河使傾朝款聚

代弓箭菴云者令越

私身才公怒思

印依虎口從言公怒

者公勅功義経公怒

皆公有切公怒

氣公怒公怒

定 おぼやかし
むろくは

日 おぼやかし

日 おぼやかし

日 おぼやかし

取 人のちか
まけとら

取 人のちか
まけとら

取 人のちか
まけとら

破 破る
あつた

破 破る
あつた

危 あやふ
あつた

危 あやふ
あつた

危 あやふ
あつた

成 なる
あつた

成 なる
あつた

成 なる
あつた

成 なる
あつた

納 おさ
め

納 おさ
め

業 わざ 良 よき 業 わざ 若 わか 忠 ちゅう

言 こと 送 おく 耳 みみ 先 まへ 之 これ 意 い 因 よ 故 ゆゑ 不 ず

取 と 之 これ 者 もの 之 これ 實 まこと 音 ね 之 これ 殺 ころ

入 い 禱 いた 念 ねん 中 ちゆう 之 これ 因 よ 不 ず 能 え 速 すみ

素 す 之 これ 送 おく 教 きやう 日 にち 由 よし 付 つけ

永 とこ 不 ず 生 ま 之 これ 思 おも 教 きやう 骨 こつ 肉 にく 同 どう

胞 ほう 之 これ 依 よ 之 これ 宿 しゆく 宿 しゆく 不 ず 捨 すて 也 なり

不 ず 又 また 之 これ 世 よ 之 これ 業 わざ 因 よ 不 ず 感 かん 死 し

然 しか 其 その 故 ゆゑ 也 なり 亦 また 古 ふる 七 しち 父 ふ 之 これ 身 み

再 また 延 のび 之 これ 也 なり 誰 たれ 人 ひと 申 まを

再 また 延 のび 之 これ 也 なり 誰 たれ 人 ひと 申 まを

も宜と入る
又ハ松林のふ
とまんちの用
開 入學や
之玉之又ハ妙
ひくまに用て
上ハ日あり
開 する日
を立らん用
鹿をくま

枝葉之と燃歎行草
高き懐かき新中柿
臨似述懐義後更身
作發友層お父母不續養
時古務及江化界

曆下段
天ノや日
さい上大音目
万ののしひて
万者之大せら
の日あり
大明日
万に用てを
上ハ立らん
くま

陰成孤云抱母懐中
慈大和國字多歌詩つ
牧の来一日行時夜安
法之思無田世改存余
系初之經迦羅治之向

おちり大者日

天一天上

は日天一神八方

を四十四日あり

あり天へ上り

あり日を天一

上とふは日

より十六日あり

ハ八方へありて

天一神のまじり

ひりーと

は日ハハハハハ

とふはハハハハ

とて社へ納て

とふ

とふハハハハ

は日ハハハハ

とふハハハハ

は日ハハハハ

とふハハハハ

徳國今流りまき

隠身福遠去遠國

仕去民百姓亦出

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

平家一法会上路

大徳狼
籍滅門

これこそ大
あく月一切の
ゆるんむこ

めつ日
ゆつ日

これニテの大
あく日こ

後日 書日

身お海を無骸お懸懸

思加之お抱胃胃弓糸

為業奉之信効き体

亡魂持積之即五化事

割義経被補任又位尉

のこりけのめんやくまの
と糸苗お而目希代と

重職何其如と治院今

悲涼款切也園在保保

寺法社中王宝市程

不揮仰如と者奉信

よひまた統云
業のこころめ
計れいむ徳の
とられよう

み墓日

百にころ
あく日こ

赤日

赤口神として

つとむるさ

謹七日

戊日門生也身

吉とれ也

ふあ日

大あ日ゆも

あも也

吉と日け日

万とれも

十一冬至
天火地火

あつちも
うーあつち
あつち

男女相姓

男木 女火水
大吉

木土半土吉凶

男火 女土火
大吉

火金水大吉

醫日在國中六千余列

大小之種紙質乃改書

進教通起信文猶以世

正家之先交我國之律也

也不京神志此紀而賴

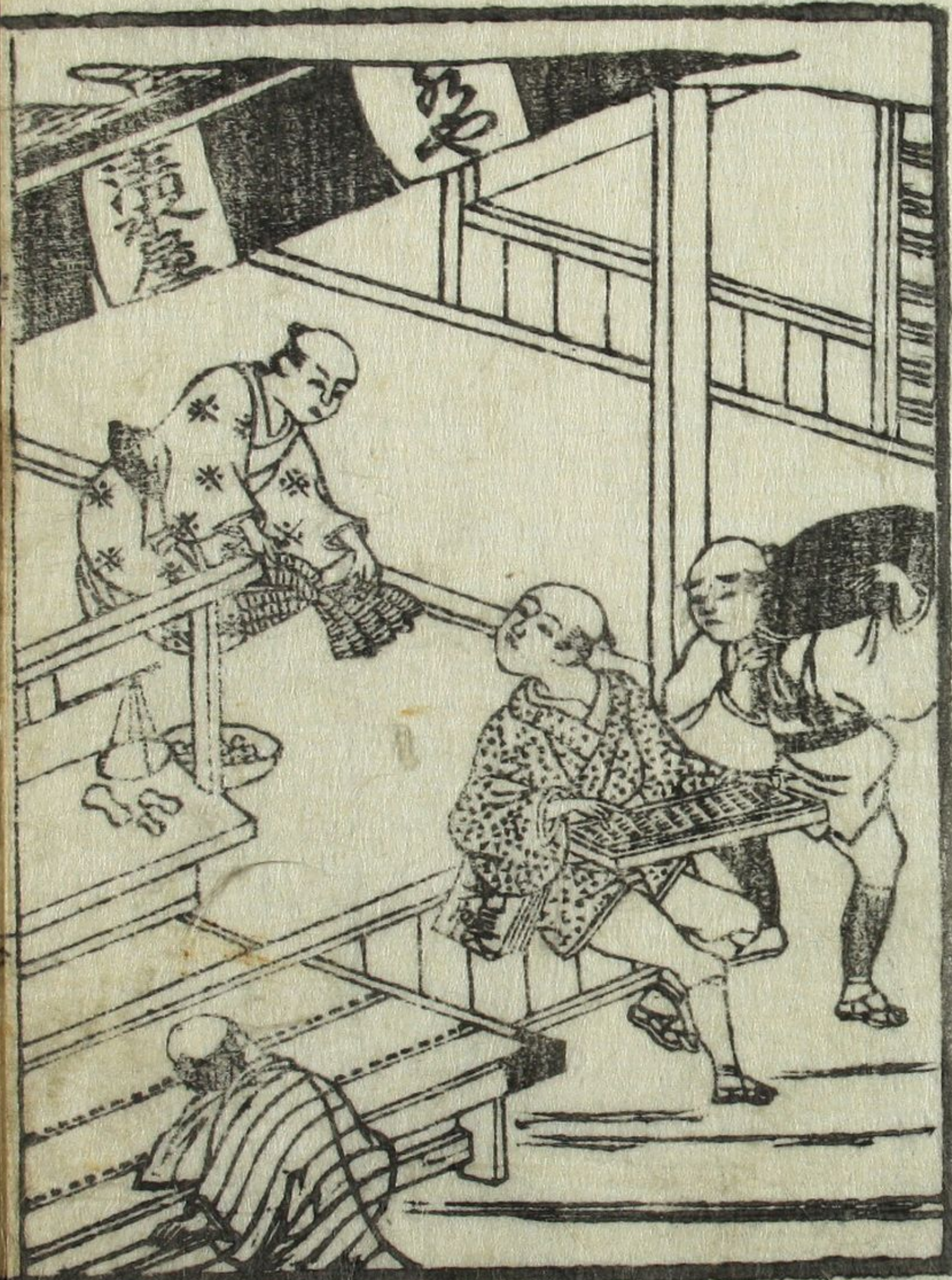
根他海也中之版廣者所

意悲何便宜大受運之國

紋也此計優也得身於

系免志松若餘考及

家門傳業花お水子孫



男土 女火 大吉
 土木半吉 凶
 男金 女水 大吉
 金木火 大凶
 男水 女木 金 大吉
 水吉 火土 大凶

仍用年来愁眉得
 於安寧不重書紙併
 令有累年諸事似此
 奈怨腹積苦
 元曆二年六月日
 進上 周藩守 啟
 源義經

義法大志

夫義ハ世の
身よりそり
らんは身ハ
り是をあら
まてそらん
のり叶るこ
と之身ハ身
二より一と
しく是は

高貴性来

凡高貴持扱文字貞
教取を之日記他文
文信取質入集用帳
月録仕切し尊也先

九九之身

一一一
二 九 八 七 六 五 四 三 二
二 九 八 七 六 五 四 三 二

九九之身
多知南橋上浪子
丁豆板原吹赤考
子貫目方登毛拂と

三三三三二二二二二二
六五四三九八七六五四三

丈五十二九丈六丈五十二十八六

天秤分銅てんりんぶん銅どう五ごねね透割符とうわりご
下合賣げあひうり賣うり也や次つぎ雜穀ざつこく杖じょう
播子はこ縮ちぢ晚おそ縮ちぢ古米ふるまい新米あらまい
麦むぎ大豆まめ小豆あずき大豆まめ角豆かくまめ蕎麥そば
表粟あはひ黍あはひ稗ひ胡麻ごま苧麻おん苧麻おん

五五四四四四四三三三
六五九八七六五四九八七

三十五六七八九十百千

種迎たねむかひ船ふね救すけ船ふね積つみ中ちゆう問もん
屋や之の荒入あらい入い室むろ安やす合あひ名な主しゆ屋や候こう
お場おば不ふ残ざんおお堂どう拵じゆ上じやう運いん
貸水かひみづ上じやう口くち積つみ名な引ひ相あひ見み
新合あらあひ助すけ利り注しゆ之の程ほど出い入いり

五七 五八 五九 六六 六七 六八 六九 七七 七八 七九 八八 八九

五五 五七 五八 五九 六六 六七 六八 六九 七七 七八 七九 八八 八九

有指失志不可其也
 味吟 汲香 油 麴 油 燭
 紙墨筆木 び 糸 絹 布 紙
 金線 綿子 綴子 紗 綾
 縮 緬 緋 子 羽 二 重 水 消 生

八九 九九 全 全
 二之版 三之版
 二一 天作 五
 二進 一十
 三十一 三十一
 三十三 三十二

縮 五 紗 綾 緋 子 綴 子 紗 綾
 羅 簪 板 毛 繩 兜 籠 綿 袴
 物 簾 物 仕 立 物 古 子 綿
 搦 綿 木 綿 麻 苧 油 肩
 衣 帷 子 給 袴 單 物 羽 織

三二 六十二
三六七下八六

三進 一十
三五七下八六

四之辰

四一 二十二
一七三下八六

四二 天作五
二五七下八六

四三 七十二
三三三下八六

四進 一十
四三三下八六

同河夜者蒲團風呂

敷帳浴衣巾踏皮平

拭帛紗帶并深魚紺苑

と紫帯金捨皮及茶深

蕨枳木襪前黄法黄

五之辰

五一 加一

五二 加二

五三 加三

五四 加四

五進 一十

六之辰

六一 加下四

六二 三十二

六三 天作五

六四 六十四

紅粉茜所と法入紋縫

菱紗羅と菊香折垂立

浪水車浄水車沢浮地

扇菱帯透九曜四目端

帯桐拍藤巴葛与尾

六五 八十二
六進 一十

七之辰

七一 加下三
七二 加下六
七三 四十二
七四 五十五
七五 七十一
七六 八十四
七進 一十

草女せんむすめ重おも好よ控か控か恰ちや恰ちや恰ちや恰ちや

弓ゆみ得え武ぶ士し之の用もち具ぐ之の士し

和わ治ぢ每ま五ご坊ぼう之の弓ゆみ

箭や矢や炮ぱう銃じゆ之の刀たう符ふ符ふ符ふ符ふ

兜かぶと鞍くら靴くつ之の次つぎ漆しやく切き付け雷らい

八之辰

八一 加下二
八二 加下四
八三 加下六
八四 天乍五
八五 六十二
八六 七十四
八七 八十六
八進 一十

九之辰

衣い之の服ふく之の帯おび鞆たもと鞆たもと鞆たもと鞆たもと

足あし纏まと之の又また刀たう指さし指さし指さし指さし

目め黄わう鞆たもと柄へい縁えん之の鞆たもと鞆たもと鞆たもと鞆たもと

靴くつ之の切き羽う之の底ぞこ之の毛け

好この赤せき銅どう之の志し之の瑜よ之の減げん之の全ぜん之の素そ

九一 加下一
 九二 加下二
 九三 加下三
 九四 加下四
 九五 加下五
 九六 加下六
 九七 加下七
 九八 加下八
 九進 一十
 八さん
 くりこみ

銅鉄象眼唐紋雕物
 細工狩下意四不叶風
 依唐物和抽之家紋冊
 玳瑁琥珀璣珠馬
 腦瑤瑁水日明青貝阜

系阿豆
 摺小路
 鞍口も商
 上書賣五辻
 深何今典
 元整形寺
 威整形一条
 中書賣上書賣

青磁香煙壺朱も
 合名通前法梨子地
 硯箱又庫文其玉筆架
 硯屏文信磁石車京
 月鑑平鏡巾着次雜

堀川 岩上
華野河上
栞徳 五門
大文 日書
知恵 光院
浄観 寺
舟 産 西云
阿 字 終

活白正石解河膠大戟
招殺大黃拱椰子杏仁
桃仁河仙業硫黃的樹石
煇硝綠青辰砂粉業
散業練業膏業金以

石名之び
作色 浮粉
栞 石 量
六 竹 庵 山
振 部 羽 柴
堀 川 早 合
小 桑 土 皮
遠 山 得 以

負業種不用名入之
振山真弟一也
真多為馬鴨重産維
子熟白名轉暗暗馬
綱經新王能真經紀

相可 尾井
 老名 和瓦
 浪云 多船
 虎川 龜井
 河尻 杉舟
 風早 榎山
 米沢 建邦

新編 鳥城亭 螺鏡于 籍
 新編 銚子 引 莫海 崩
 新編 紫雲 精 鈴 珠 真 乾 絲
 壯麗 蛤 馬 刀 新 海 月 海 光
 百身 錫 地 新 雜 節 新 經

十河 若原
 月橋 相末
 名張 宗像
 難井 信極
 馬淵 美榮
 板並 貞誠
 明城 善雄
 衣掛 弓削

萬也 花園 名物 此 無 際 派 迄
 略之 枕 右 亦 有 於 後 治 為
 混亂 惟 初 學 之 童 輩 平 生 之
 九 扱 文 字 之 正 似 思 亦 粗 沈
 卷之 柳 生 商 賣 亦 次 少 年

舟木 根井
 宮上 竹尾
 百津 石月
 津尾 園
 世田 田
 打田 田
 陶山 山

後切雅時先子跡善休
 のしゆきうへきさるうんすきあしすて
 と執り可しの所要終而
 歌連子能治立花跡鞠
 系湯 宿 舞 舞 舞 舞 舞
 琵琶琴 秘 古 儀 去 家

那妙茶
 ぼつろの茶
 三女は一人全ふ
 ばせん一つめ拜
 てよう

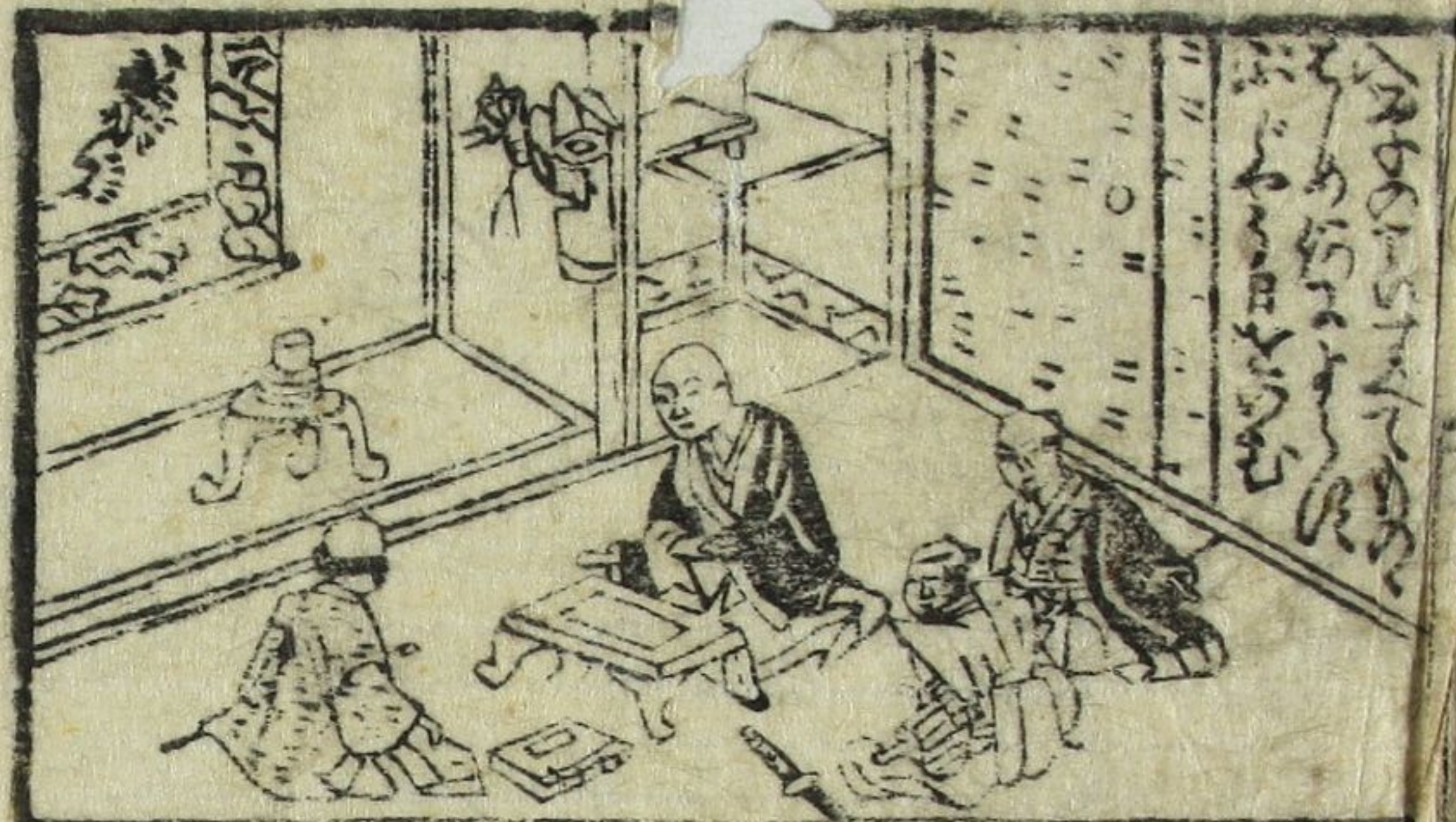
業有餘日折々如懸て相
 考或甚お其茶後六小款
 三味線も酒も茶も其成
 不意分限録衣服茶室
 泉水築山樹木多可樂

ちみぢらの茶
ます紙をたて
あに志めし
のちへいあて
火のよそり
の上をわてめ
てす
うしーまひ
まはせとせ
あひてす
又おちちよ
あひてす
又おの本とせん
あひてす

のこり
まはせとせ
あひてす
又おの本とせん
あひてす
又おちちよ
あひてす
又おの本とせん
あひてす
又おちちよ
あひてす
又おの本とせん
あひてす

わけどの茶
白さしとせ
あひてす
又おの本とせん
あひてす
又おちちよ
あひてす
又おの本とせん
あひてす

まはせとせ
あひてす
又おの本とせん
あひてす
又おちちよ
あひてす
又おの本とせん
あひてす
又おちちよ
あひてす
又おの本とせん
あひてす



○ふちりくく月

九	五	正	六	五	四	三	二	正
ろ	う	ろ	十	十	十	九	八	七
し	六	二	六	四	一	二	二	二
十	ひ	こ	日	日	日	日	日	日
二	ま	三	十	十	九	八	七	六
日	七	日	日	日	日	日	日	日
九	と	四	日	日	日	日	日	日
日	り	日	日	日	日	日	日	日
九	八	い	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日	日

文政十年丁亥正月元日

皇都書肆

東都書肆

浪華書肆

三條通 大谷 仁兵衛

寺町通 錦小路 半三郎

日本橋 須原 茂兵衛

日本橋 前川 六左衛門

心齋橋 岡田 茂兵衛

博労町 小林 利兵衛

御用 御小問物諸色御屋 御手紙書物所

